

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

理論と実践の融合。実践VTRを用い、体育の具体的場面と理論を結びつけ講義している。学生からの否定的コメントについて即応できることは修正する。

諸事情により後半の授業を急遽オンデマンド授業に切り替えたことにより、当初予定していたピアトレーニングなどを行うことができなかった点は反省材料としたい。ただし、オンデマンド授業だけでなく、対面授業時の動画も学生に公開設定したことは、復習に役立ったと思う。

授業資料や参考資料などは、すべてまなびネットに掲載するようにし、学生のペースで復習ができる環境を整えた。一方で、その分野を初めて学ぶ学年に対する授業では、基礎知識の教授が多くなり、ディスカッション等が少なくなる傾向にあるので、その点をバランスをとりながら実施したいと考える。

授業について、当職が実務家であることから臨床心理の現場の事案を机上の論だけでなく、実践的に指導できたことがよかったと思われる。特に犯罪者や非行少年など、学生が想像しがたい支援対象者の実践の提示は学生にとっても興味深かったと思う。

「質疑応答の機会」については課題と感じ、継続的に改善を試みてきた。2023年度は、まなびネットで実施する小テストに質問欄を設ける（教職科目）、授業中だけでなく、授業前後も、疑問点や気になったことをまなびネットで書き込めるようにする（専攻科目）といった対策を行い、ある程度効果があったように感じる。授業形式により今回の対策がとれない場合もあるので、今後も改善を進めていきたい。

概ね高評価をいただいたが、課題の「減点システム」を「粗探し」と取られてしまう場合もあったので採点方法を再検討したい。問題は学生が「提出した時点で得点がもらえる」と考えている点で、これは課題を作業と捉えている証左でもあるので、今一度講義の意義を学生に説明していきたい。独自の工夫は、毎回オンライン上で質問を収集し、その翌週に全体にフィードバックしている点。ただし、後期はあまり意見がなかったので、もう少しハードルを下げる工夫を行いたい。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

どの授業においても音声課題となるものを出している。Teams 上で使える、音読の宿題（課題）に活用できる機能を使い1年生は英単語、2年生は短いフレーズを読ませている。判定はTeamsが自動的に行ってくれるため教員による偏りはない。アンケートによるとほとんどが音声課題によるコメントが多かった。使い方がわからなかった。2週間に1回でもいい。%が高い生徒（発音が良い生徒）にはポイントをつけて欲しいなど、正直な意見が多かった。どのコメントにも真摯に対応したいと思う。

授業については教員からの一方向性の授業とならないように、活動や議論の場などを設けている。学生同士のグループディスカッションでは楽しそうに議論している姿が見てとれ、生徒同士のコミュニケーションによる理解の補填は有効であると感じた。一方で学生の知識不足や自主的な文献調査等の活動が不足しており、時間外での調べ学習や文献調査の仕方についても改善していきたい。

主体性を重視しています。

どれも未提出が多く、正確なアンケートとは言えないと思うが、その限られた回答を見る限り、まずまずであろう。動画を活用したオンデマンド式遠隔を織り交ぜた点が、理解しやすさにつながったのではないか。今年度も、今までどおりでいいと考える。

教育現場の実態や教員生活をしながら困る事例なども授業で取り上げるようにしている。その点に関しては概ね好評のようであるので引き続き継続して努力する。授業趣旨が伝わっていない回答も一部見受けられたので、学習内容・活動がどのような意味を持つのかを分かりやすく伝えるように努力したい。

授業方法について特段工夫などはしていません。コロナ以後、遠隔での授業を学生の実態に応じて認めるようになりました。

授業方法について、ディスカッションを多く取っていることは評価されており、この点は継続したい。また授業の教え方についても改善していきたい。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

アンケート回答者数が少なく、改善に関する意見はなかったが、今後も学校現場の現状と課題を踏まえた、授業作りに関する課題を設定していく。

造形に関する授業については、できるだけ楽しみながら技術の習得ができるように内容と方法を工夫している。アンケート結果では現在の授業の内容や方法を継続していきたいと考えている。

「教員から意見が求められたり、グループ・ディスカッションを行ったりするなど、質疑応答の機会があった。」の得点がやや低く、一方方向の授業になってしまっていると感じた。グループディスカッションについては今後取り入れていきたい。授業方法について独自に工夫している点は特になし。

授業で扱う範囲を簡潔にまとめたレジュメを使う様にしている。

コメントシートに書かれている質問については、次の授業の初回で丁寧に回答するよう心掛けている。この点については概ね好評と思われるので、よりよい回答ができるよう工夫しながら、今後も継続していきたい。

対面、同期型オンライン、非同期型オンライン（オンデマンド）のすべてに対応した授業を、多くの科目で展開している。すべての教材、レポート等はデジタル化され、学習者は必要に応じて取り出すことができる。

昨年の授業実践の反省から、グループワークを積極的に取り入れることとした。昨年よりは改善したように思われるものの、グループワークの説明を授業の初期段階で行なうべきであった。

1年次の専攻科目（1）では高校まで学んでこなかった内容で範囲も広いため、定着を促すため反転学習の形態をとっている。内容に習熟するとともに、大学での学びにおける自主学習の習慣を定着させる狙いがある。2年次の専攻科目（2）ではより内容は難しくなるが、自主学習の習慣が定着している者とそうでない者の間に開きが大きくなり二極化しているおそれがあり、今後の検討課題とする。3年次の実習ではここまで学んできたことを体験を通して慣れ親しむことを主目的としており、受講者は少ないが履修したものは楽しみながら学んでいたように思える。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

「運動レシピ」と称して、料理を教材として、どのように運動（遊び）をつくるのかを3人グループで担当を決めて、毎回発表・検討・改善案の共有を実施した。アンケート回収率が大変低い中であつたが、回答の意見・感想から、改善案の共有及び遅れがちな子どもへの学習指導のアイデアを盛り込んでいきたい。

各授業において、学生同士での対話をする時間を適度に設定したことによって、学生自身の考えを語るができるだけでなく、他の学生たちの考えを知る機会になった。また、全体共有する時間も設けたことで、より多くの学生の考えを知ることができていた。授業内容については、知っておくべき基礎的な知識だけでなく、より学生たちが知りたい情報を盛り込めるようにしてゆきたいと感じた。

毎週の事前課題については、単に読んでくるだけではなく、読んだ上で建設的な議論ができるように「読みのポイント」や「疑問点」などをまとめたものをまなびネットに事前に各週の欄に載せてある。それに従って事前課題に取り組んだ上で、授業中に発表と議論を行い、事後学習としてまとめを提出してもらっている。この授業構成は学生の授業内容理解に役立つようで、概ねアンケートでは高評価であつた。今年度の授業内容を振り返り、さらに充実した議論となるように、事前・事後学習の内容をアップデートしていくつもりである。

最新のデータに基づいた資料を提供するように心がけている。学生に考える時間を与え、その考えを聞く時間を設けたいと考えている。

なるべく分かりやすく説明することを心掛けてはいるが、しかし「独自の工夫」と言えるような独自なことはやってはいない。オーソドックスな授業を行っている。

学生による評価を確認しました。多くの授業で（私が担当する分については）それほど悪くない評価をいただいたと思います。今後も引き続き学生の興味を引き出せるような工夫をしていきたいと思つています。一方、他の教員と一緒に担当している講義については辛辣な意見と指摘が多かつたです。学問の魅力が伝わらなかつた、あるいは嫌いにしてしまった可能性があり、残念に思つています。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

学生同士のグループ・ディスカッションを行ったり、ロールプレイによる実践的な学修を取り入れたりすることによって、互いの意見や考えを取り入れ、理解を深め合うことができるようにしている。また、授業において、一枚ポートフォリオを活用し、授業ごとのコメントを返すことで省察を促しており、学生が自ら学びの目標をもち、その自己評価を行うことができている。今回のアンケート結果から、教員が複数で担当する授業科目では、各授業内容の意義や必要性を明確に説明することが必要であると思われた。

特に演習の講義においては、できるだけ学生を動かすような仕組みを試みている。

授業内容をもっと面白く展開するよう工夫したいです。

学生が自ら主体となり創作する過程を大切にし、授業を進めた。実技ではあり直接的なフィードバックを大切にしながらも、オンライン上で個別の感想を集計し、学生個人の意見を取り入れるようにした。アンケートにおいてもおおむね満足してもらっていたのでよかった。

グループディスカッションによって、一人では気づけない教育相談の解決方法などについて、チームで解決する模擬体験ができるよう心掛けている。資料配布の方法について、受講生の3名より意見が寄せられていた。授業の受講状況などを考慮して今後の課題としたい。

学生が新しい考え方を学んだのはうれしいです。

教材研究・模擬授業など、教育実習や教職に就くことを前提とした授業を心がけている。したがって、ただちには達成感を持ってない部分はアンケートにも反映されているようだ。具体的に実際の授業を意識した工夫をしていきたい。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

独自で考えた「パズルカード」というメソッドやプリント・資料などを使っています。教科書はないので、復習やテストの準備、また将来先生になったときに参考になるため、ノートに配って履修者が「自分の教科書」を作っています。ノートは共通科目の成績に入ります。クリスマスなどは、ブラジル文化に触れながらポルトガル語の表現や会話を練習する機会にしています。楽しくて分かりやすい授業にしたい気持ちがあります。アンケート結果を受けての改善点は、まず、アンケートについて案内してもアンケートの回答提出が少なかったので、次回から授業中回答してもらうことにしたいと思います。そして、他の分野と関連する方法を見つけたいと思います。自分の能力を向上しながら、履修者が先生になったときにブラジル人児童生徒やその保護者に使えるポルトガル語を教えていきたいので、今後も新たな授業教材など効果的な工夫を考えたいと思います。

記述式の回答に、課題提出の締め切りについての記述が多かった。課題を出してから、提出期限までに十分時間が与えられるよう配慮したい。

「グループディスカッション」という形式は一切取らない授業を展開している。その代わりに、匿名での意見紹介をしたり、自由な発言（表記）を促したりと工夫はしてきたが、学生たちのイメージするような授業における「交流」空間をどう生み出していくか。これがこれからの課題だと考える。

できるだけ教科書に載っていないような興味のある話題を話すように心がけた。しかし、基礎的事項の定着が授業時間だけでは十分でなく、話についてこれない人もいたようだ。基礎的事項の定着が不十分なため、グループディスカッションなどの考える時間を設けることも出来なかった。まなびネットなどを活用し、授業外学習の充実をはかり基礎的事項を定着させたい。

実技の授業では、実技の向上と共に、理論や指導するときに気を付けるポイントなどを解説しながら、個々の問題に対して指導するようにしている。アンケートの結果は未回答が多く、全員の声ではないと思うが、満足している学生が多いようなので、今までのやり方を基本にしつつ、しっかりと学生の声に答えていきたい。

学習意義の理解と探究意欲の向上を図ることが大きな課題である。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

アンケートの回収率が低すぎて、結果を受けてのコメントはなかなかしづらいところがある。授業方法については、学生が主体的に関われるような活動を積極的に取り入れ、また、疑問を投げかけて答えさせるなどを行っている。

【工夫点】

- ・講義型の授業→スライドに書き込む形式で授業を進めることで、スライド式と板書式の良い点を取り入れている。→授業前に前回の授業内容の質問を取り上げ、可能な限り理解を深めてから進むようにしている。
- ・演習型→教員が口出ししすぎず、学生が自由に活動に取り組めるようにしている。

【改善点】

演習の授業では、内容が難しかったとの指摘を受けた。確かに、講義では学生の関心を集める親しみやすい話題提供に留めている一方で、演習では実力養成のために学問の難解な部分にも触れていた。もう少し学生の取り組みやすい課題設定を行いたい。

現代的教育課題への対応について、複数のアプローチがあり得ることを認識していただくことを念頭に授業を構成している。アンケート結果を踏まえ、もう少しわかりやすい課題を提示すべきであると考えます。

講義目的に応じた基本的な知識や技能を習得することはもちろん、それを活用して学びを深めたり、受講生同士で交流することを通じて、より学びを自身の実感や経験に結びつけていくことができるよう心がけた。その点については、ある程度アンケート結果でも評価されていたと感じる。ただ、シラバスに書かれた目標以上の学びがあったかという項目などいくつかの質問項目では「どちらでもない」と回答されている方が複数名いたことを踏まえ、もう少し専門的な知識や学びが得られるよう講義内容やその扱い方を工夫していきたいと考えている。

多くの授業をハイブリッドにして、知識を学ぶ回はオンデマンドで、それをもち寄って対面回は話し合ったり模擬授業を行ったりという授業設計をしました。それは一定の効果を得ていると思いましたが、うまく伝わらない部分もあり、人数がある程度ある授業ではもどかしさを感じました。どのように学び方を伝えるのか、改善をしていきたいと思えます。

授業でグループワークを多く取り入れた点が高く評価されていたように感じるので継続したい。来年度の授業では他の分野や事象と関連付けることにさらに挑戦したい。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

学生参加型にするため、授業ではペアワークやグループワークなどを取り入れ、グループでのプレゼンテーションも実施しました。授業時間の都合で、期末試験の追試験の時間がきつくなってしまったことが反省点です。シラバスの成績配分の表記についても例年通りでしたが、今期は実習やインフルエンザの流行で追試験が増えたことも一因かと思われます。

毎回この評価書を書いて思うことだが、授業アンケートに真摯に答えてくれる学生のためにも、しっかり反省し、これを今後に生かしていかなければならないと考える。それぞれ授業によって多少対応が異なるが、全体としては以下のようなものである。 学生に興味・関心をもってもらうため、できるだけ分かり易く、基礎基本を重視している。理論と演習のバランスを常に考えている。また、苦手意識を克服できるよう、個人個人のレベルや達成状況の把握に努め、そして、それに合った対応を心がけているつもりである。 アンケート結果は調査参加人数が少ないため、参考にしにくいところもあるが、以下の点を改善点として更に努力していく所存である。

- ・グループディスカッションも多く取り入れていきたい。
- ・難しいが、他の分野や事象との関連づけを、さまざま考えたい。
- ・課題探求力を高めるべく、自ら主体的に調べる方法を模索したい。
- ・ICTの効果的利用を更に考えていきたい。
- ・カリキュラム上、学生の思うように選択履修ができていないところがある。学生の負担にならないよう、演習発表等に配慮する必要があると思う。
- ・授業内での無駄のない時間配分と方法を考えたい。
- ・模擬授業に関して、様々なアイデアや工夫を盛り込めるよう、可能な限り支援していきたい。そのために教材研究に一層力を注ぎたい。

授業時の投影資料などを、スタンドアローン（それを見るだけで、およそ自明である）なものにする。できる範囲で、学生から見て、できそうでできないような、あるいは初見では自明でないがひょっとしたらできるかもしれないと思えるような、課題・状況に取り組ませる。周囲の学生と相談等できる時間を設ける。可能なら、協働作業・グループワークを含める。課題の内容・分量・提出タイミングは再検討する余地があると思われる。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

以下の3点を工夫した。

- ・いつでも質問が受け付けられるよう、メール、Teams、Forms等複数のチャネルを用意した
- ・授業中、授業内容を聞いていないと回答できないような設問を複数用意した
- ・授業を前半と後半に分け、前半に一通り説明をした後、後半に操作を行うようにした。

説明の時間と操作の時間を分けた理由を以下に説明する。今までは説明しながら操作させ、全員が操作し終わったことを確認したら次に進める、というように授業を行っていた。そうすると、操作に慣れている学生と慣れていない学生とでは操作時間にかなり差があるため、操作に慣れている学生が時間を持て余すことになってしまっていた。それを一通り説明した後で操作を行うように変更し、早く終わった学生はまだ終わっていない学生を手伝うようにした。こうすることで、授業時間内に作業が終わらない学生の数が減った。アンケート結果はおおむね肯定的な回答であったが、回答数が少なかったため、履修生全体の意見が反映された結果ではないと思われる。回答するよう案内をしてはいたが、課題を優先したためか、回答数が少なかった。回答数を増やすことが必要である。

専門科目については、意義や必要性について、内容そのものにあると考えてきたが、教職等の将来的な可能性と結びつけて説明する必要があるかもしれないと考えた。また、試験や発表等の後、自信をもって次学期・次年度に向かえる工夫も必要であると考えている。アンケートの点では、ゼミなどのより教員と密接な関係の科目については（人数も少ないので特定される不安もあるかもしれない）、記入すること自体に勇気が必要であると思われ、教員以外へのフィードバックの選択肢があるのが望ましいと考えた。その他の科目についても、そのような方法を加えると、より学生からの率直な意見が得られると考える。教科内容科目については、各自の専門との関係性に着目させる工夫、自主学習を促すアプローチに課題が残る。また、シラバスに固執せずとも、毎回の連絡や評価の配分など、もう少しカジュアルにシェアできるようにしたい。まなびネットをはじめ、Teamsやメールなどを、用途に合わせて使用しているが、学生側の活用状況にもムラがあるようである。

グループディスカッションの授業について、感染症が流行っていた時期であり、個別で考えてもらう形としたことについて、残念に思う学生がいました。次の授業ではグループディスカッションを予定通りに行うこととする予定です。また、予定の変更についてはできるだけ早くご連絡する方向で改善をいたします。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

提出されたレポートをなるべく早いタイミングで授業内で教員がレビューすることで、受講者が何を理解できていて、何を理解できていないのかを明確に自覚できるように工夫している。ただ、このやり方は、ともすると、学生と教員の対話に重点が置かれ、学生同士のディスカッションに十分な時間を取れない現状もアンケートからは伺え、今後改善すべき課題である。

授業を進めていく上で、基本的には先行研究で示されているデータをもとに説明を行っていたが、その部分が難しかったというアンケート結果があった。そのため、次年度以降は、より理解しやすいように工夫したい。

工夫した点は、演習の時間には見回りをし学生の理解度を知る努力をした点、また講義内容が難しいため丁寧に語ることに努めた点である。ほぼ空欄の自由記述欄の中、1名だけ要望が書いてあったので、そのまま引用する：『毎回学びのある授業で、前期の内容が生きて後期に繋がっている接続が感じられ、意欲的に学ぶことが出来ました。1年間ありがとうございました。演習プリントの答え等が、公式ですべての問題について配布されると、より完成度の高い証明になるのかなということを感じました。（最終の授業等でも）この学期一番意欲的に学ぶことが出来た科目でした。』教育的配慮のため演習プリントの解答は“あえて”配布していないのだが、好意的な感想を述べている彼／彼女ですら解答を切に希望していることが分かった。今後の検討課題としたい。

Wordで資料は作成しつつも、スクリーンに映し出せるようなレイアウトで資料を作成している。その上で、スクリーンにその資料を映し出しながら授業を行い、PPと同様の効果が得られるようにしている。シラバス等の説明については、かなり好意的な結果が出ていた。それに対し、授業の結果については、若干批判的な結果も出ていたように思われる。今回は、授業時間のコントロールに苦労し、計画どおり授業が進められなかった面がある。学生から疑問などが出た特定の事項に時間がかかりすぎたりした。学生の毎回の意見を大切にしたい授業をしているので、必ずしも計画通りできないことが悪いわけではないが、そのことが裏目に出たかもしれない。うまくバランスをとる方法を考えたい。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

オリエンテーションでは、受講生自身が、授業の目標や授業の意義、授業を通して成長したい点、身に付けたい力などをワークシートに記入し、それを基に、受講生同士がディスカッションを行い、目指す授業について共有している。15回目の授業では、最初のオリエンテーションで立てた目標について、どこまで達成できたか振り返りを行い、自分の成長について自覚化しながら、学びを深めるように促している。アンケートの結果を受けた改善点としては、論理的な思考力の育成に力を入れていきたい。

授業内で授業アンケートへの回答を複数回にわたって依頼したが、回答した学生が少なかったことが反省点である。授業では、学生たちがより主体的に学びに取り組めるように、具体的な事例やエピソードを取り上げ、グループワークやディスカッションを多く取り入れるようにした。今回のアンケート結果から、授業時間の配分が課題であると痛感した。今後は、内容の精選をしていきたい。また、さらに学びたいと意欲がわいたり、「授業のなかで提示された専門知識を体系的に他の分野や事象とも関連づけながら理解できた」という項目は不十分であったと感じるため、今後は、他の分野や事象との関連付けを意識して授業改善に取り組みたい。

まだ、実習経験の無い学生や他学科の学生もいることを考慮し、できる限り事例やDVDなどの具体的な場면을イメージして、知識と実践を結び付けられるようにしている。その事例やDVDも引き続き教材研究を続けていきたい。

主担当であった3教科ともネガティブな評価はひとつもなく、学生も概ね学習内容を深めることができたと考えられる。今後はゼミにおいても他の領域の知見も重ねながらより統合的に知識を深められるような授業展開をしていきたい。

作品制作についての気づきや学びをレポートで評価するという指針を明示したことで、安心して作品制作ができているようである。感染症について配慮してほしいとの記述があったが、マスク着用を強制できないので改善が難しい。

授業にあたっては、その科目が何を目的にしているのか、本時の内容がどのような位置にあるのかを毎回明示するようには心がけている。その点はいずれの授業においても効果があると読み取れた。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

説明は口頭だけではなく視覚的に分かりやすい教材を用意すること、理論などは、自分自身の現場経験から具体的な説明をすることに加え、ゲスト講師として現任者等を招き講義していただくことで、より理解しやすいように工夫している。アンケートの結果は、工夫が「よくあった」「ある程度あった」のみであったため、これまでの方法を継続していきたい。

さらに理論と実践が結び付け、実感を伴う理解ができる学生の数を増やしていけるように努力する。また、教師になるのに自信がもてるように、声かけや助言をしていく。

実技技能を体感的に感じられるよう、道具の持ち方や扱い方を丁寧に指導していること。また、使用感覚を言語化させることで、感覚的な記憶に留めないようにしている。

小中学校の授業事例を基に、授業の構成の仕方について行ったこと。

学生の学びに対しては興味関心を持ちやすいようなトピックを準備して今後どのようにしていくのかについて考えるようにしている。アンケート結果から特に問題はなかったと考える。

なるべく野外の観察などを多くして、教員になった際、身近な自然について教えられるスキルを身につけてもらえるように工夫している。

- ・課題の曲を示す理由と、なぜ曲全体（または楽章全体）を演奏できるようにしないといけないのかを説明した
- ・早口という指摘があったので、ゆっくり話すように心がけた
- ・専攻科目（1）については時間内に片づけまで終わるようにした。またできる限り学生主体で、自分達で考えて創意工夫しながら練習を進められるように配慮した
- ・個人レッスンになる専攻科目（2）については、全員に丁寧に指導するように時間外まで授業を行った。それにより設定されている授業（90分）の約1.5倍の時間を要した。

今年度、とくに力を入れて取り組んだことは、講義中の課題と、講義前後の課題とを区別して実施したことである。講義後の課題の量について、学生からのアンケート（自由記入欄等）から、適量かどうか、いま一度検討したいと考える。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

グループ活動に重きを置いて、学生が主体的に研究活動を実践できるように適宜グループに入ってコメントするようにしている。授業のスケジュールのタイトさは確かにあるが、結果の分析方法について予習の仕方の呈示を行うことで、学生が授業時間を研究のために十分使えるように配慮していきたいと思う。

コロナ禍で中止していた、実技の担当制度や、口腔の観察などを今年度は実施していきたい。

アンケート結果から見て、本講義の学習到達目標はおおむね達成でき、教材・資料も概して適切であったと考えられる。また、コメントシートを通じた質疑応答も、学生の関心を高め知的好奇心に応えるために意義があったと考える。他方で、学生の授業外での積極的な自主学習を促すために、さらなる工夫が必要である。今後はより丁寧な参考文献の紹介などを心がけていきたい。

演習単位の授業は、担当発表の前段階で、何を求める授業かが確実に伝わるよう、個別に話し、指導する機会をなるべく持つように心がけている。講義単位の授業でも同様であるが、理解の深化を促す問いの用意に力を割き、受講者同士で意見交換をしながら体感的に把握できる場を作ることを心掛けている。それにより、能動的な授業参加のきっかけが得られ、自分の言葉で授業がわかることに結びついている様子が見える。アンケート結果の中に、ある授業において、理解のはかり方を各時間単位で行ってほしい旨の希望があった。各授業で達成度がわかることは受講者の自覚も促し、教授者側も授業方法の見直しにつながるなどメリットは大きいですが、半期という限られた時間枠の中でそのことに時間を割き続けるのはなかなか難しいかとも思う。当該講義の試験の方法だと、確かに受講者の取り組み方の一部しかわからないとも言えるので、問い方の工夫を通じて受講者の希望に応えたいと思う。演習形式の授業については、受講者にも能動的な参加姿勢が見え、それぞれの達成感も得られたようである。今回の方針の継続で、まずは良いものと判断される。

本授業では、教科である音楽そのものの理解を深める体験をすることにより、指導する際の授業づくりのヒントや、子どもへのアプローチの考え方や留意点に結びつくような内容を工夫した。アンケート結果から今後は、授業をふまえてさらに積極的に自分自身で探究するモチベーションにつながるようにしていきたいと感じた。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

この授業では、講義の領域上、学ぶべき項目は非常に多岐にわたり、膨大なものであります。工夫を行った点として、内容を理解しやすくするため、スライドを視覚的なものにしたたり、動画を利用したりしていました。また講義時に内容を理解しやすいように、講義後に復習がしやすいように、まなびネットでスライドを提示してました。また内容においては、今日的な話題についてとりあげました。アンケート結果からは、授業中に学生に意見を求めたり、ディスカッションをしたりするような時間をあまりとれなかった点が課題と理解しました。次年度からの講義では、学生が自ら考える時間を設定していくようにしたいと考えます。

今回のアンケート結果は回答数が少な過ぎて、あまり参考にならなかったですが、概ね良好だったかと思えます。

補助教員として、オンデマンドでの課題のチェックを担当しました。締め切り日の設定のチェックなど確認をしていきたいと思えます。

- ・アクティブラーニングを心掛け、グループワークを積極的に取り入れて学生自身が主体的に授業に向かえるようにしている。
- ・事前に資料を送付し、予習をもとに講義を受講できるようにして、講義内容の理解をより深められるようにしている。
- ・学生から提出された課題に対してのコメントを全体で共有し、前回授業のリフレクションをもとにして講義を進めている。
- ・体調不良や公欠の場合の欠席について代替課題を出すなど、個別にきめ細かく対応し、欠席が続かないように励ましている。
- ・学生からの要望により、今年度から毎回の課題はまなびネットへの提出ができるようにしていく。
- ・資料の精選や、課題ノートの作成のしやすさを工夫するなど、学生の声を聴きながら改善していく。

学生が自ら問いを持って授業に参加できるよう、また15回の授業の中で学生が成長を実感できるよう授業のデザインを行っている。その工夫に対して、気づいている自由記述のコメントを書いた学生が数名いたので、学生にも伝わっている様子が見られた。来年度以降も授業の質を高めるように、学生の声も聴きながら授業改善を進めていきたい。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

授業内容に関しては「まなびネット」へできる限り詳しく教材を公開し、また対面授業と同時にTeams会議室への配信を行うといった工夫をしています。ただし一部アンケートに「授業の動画アーカイブを作成し公開してほしい」という要望がありましたが、独力では実現は困難だと感じました。

教員養成大学であることを意識し、「教育現場では」という観点からの内容を中心に構成することを心がけている

学校現場で活用されている学習支援アプリを大学の講義においても使用し、学生のICT指導力向上に少しでも貢献できるようにしている。改善点として、グループワークや話し合うような活動をとる時間が少なかったため、今後はそのような時間を増やしていく。

授業毎に今後の実生活に活かせるような体の動かし方、使い方を行ってから授業を行うようにしている

社会問題を自分事として考えてもらえるようニュースで話題となっているテーマについて問題提起するようにしている。

道具の仕組み理解を基礎とした指導法を実演入りで説明したり、擬声語の活用を学びあわせた。技能の指導法についてそれぞれ向上できた。

理系の学生には、高校化学との関連性を示して、それとは異なる新しい視点を解説した。また、レポートの考察のポイントを示した。文系の学生には難しい内容であるので、親しみやすいトピックスを紹介したり、テーマに対して自分の意見を求めるような出席レポートを書かせて、講義への積極的な参加を促した。イメージやエッセンスを伝えられるよう努めたい。

オーソドックスな演習型の授業をしています。アンケート結果は2名のみの結果なのでなんとも言えませんが、もう少し丁寧な目標の説明が必要かなと思いました。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

科目名に相応しいように、授業内での教授言語は原則英語としながらも、初学者～中級者までを想定し、なるべく使用語彙などは制限し、複雑な語彙などを使用する場合にも、理解度合いを見ながらパラフレーズを挿入したりし、オールイングリッシュの環境下においても学習者が学ぶことができるようにしている。アンケートでは、回答者の全数のうち2名のみと、少数であったが、「理解しやすいように、資料や機器の利用、活動環境設定、コメント提供などに工夫のある『教え方』が展開された」の項目にて「あまりなかった」という回答があった。今後は視聴覚資料などの活用頻度を増やすなどして対応したい。

できるだけ授業題目に即した内容の授業を行うよう心掛けている。また、飽きが来ないように、複数の内容を用意している。アンケートに関しては、今回、アンケートの回答者が少なかったものの、回答した者の中では「とてもそう思う」と「ややそう思う」と回答した者が多かったことから、特に目立った問題はないと思われる。

・専攻科目については、例えば、全国学テや国際学力調査の結果の調査やそこから伺える児童・生徒の学習内容の理解の様子・教科書紙面などの調査など、事前に課題を与えて、授業ではその報告を受けながら、事項の解説をしたり、更なる探究課題を示唆したりして、授業を進めている。アンケートでは、回答数は少ないものの、概ね好評のようなので、今後もこの方針で行いたい。

・教職科目や教科内容科目については、授業の開始時に、前回の授業内容や授業外課題の理解を問う小テストを実施している。また、授業で使用するスライドは、主要なものを抜粋し、用語補完やメモができるような授業資料として配付している。さらに、授業内容の理解を確かなものにするために、適宜、事例の列挙・評価・構成など演習的な活動も取り入れている。この種の活動については概ね好意的に受け止められていると思われる。なお、関連する資料や参考文献、事項・事象を自ら調べる活動は、授業外課題として示唆したが、一定程度、否定的意見を回答する学生がいるようなので、今後はより積極的な支援をしていきたい。また、グループ・ディスカッションの機会はなかったので、そうした活動も取り入れていきたい。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

- ①ICT機器の活用、とりわけ学習者用デジタル教科書の導入が2024年度からであり、そのための教材活用等を実践指導で行った。
- ②受講生に対応した授業。小・中・高等学校の養成科目として全ての受講生に対応するための工夫として、教科書以外にも教材や現場での授業実践等を視聴覚教材で提示した。
- ③本授業に積極的に取り組んでいる受講生とそうでない受講生には差があり、とりわけ模擬授業等では、教育実習先でのこともあるため、積極的に取り組んでいる受講生が不利益を被らないようにする授業とした。その結果、積極的に取り組んでいる受講生が粘り強く学ぶことができたと思われる。また、グループワーク等の時に、積極的に取り組んでいる受講生から、取り組まない受講生達の相談を多々受けたが、積極的に取り組んでいる受講生が不利にならないような授業、評価にするため、授業内容を変更したり形態を変更したり、受講生に合わせて臨機応変に対応した。
- ④受講生の反応から、当初のシラバス通りにいかない場合も多かったので、受講生に合わせて、その都度シラバスを変更・修正をしながら授業を行った。

授業内で何度も繰り返し説明することで、履修者の理解度が高まるようにした。また、学生が意見交換する機会を多く持つようにした。

共通科目の授業では、数学・物理学の基礎知識が必要となるが、数式の使用を最小限にし、多少の厳密性は損なわれるが、定性的な理解が可能となるよう工夫をしている。学生間で受講態度に温度差が見られるため、グループワークの機会を増やすなどして、クラス全体として興味・関心が高まるよう改善したい。

授業方法としては、理論と実践が往還するようになってきている。実践は自身のものであるので、学生のレポートの内容を基に更に理解が深まるよう工夫している。質問には全体に共有できるよう配慮している。個人の体験活動を課題とする一方、それらを共有する場を設け、学生自身も生活科や総合の体験活動を実感できるよう配慮しているが、以上の点はおおむね評価が高かった。改善点としては、より探究的な学びになるよう工夫することである。

今後も学生のニーズにあうような、役立つ授業を行いたいと考えています。

教育実習や初任者として学校に赴任したときに役立つ教育技術を実技をまじえながら教えている。教師目線、子ども目線の両方を経験させ、よりよい授業をつくるために必要なことを両面から学べるようにしている。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

ガバナンスの学生は、「その経験者」に「面接の指導をしてもらおう」ということがないと聞きます。ですので、採用の経験者として私が自己PRを指導する、というところから始まり、実際に人に伝えるために何を言えばよいのか、という経験を積むためICT支援員として模擬研修を実施する、という場面を設定して、全員に2回発表してもらいました。学生にたくさん発表の機会を作りたいと思っていますので、今後自分の発表が終わっても、他の人の発表をもっと全員が一生懸命聞く、ということについて工夫したいと思います。

これまで学びネットを活用して、学生さんひとりひとりの学習状況を把握することができました。

・すべての授業について、学生にコメントシートを渡し、記述を求めています。そして、すべての学生のコメントについて、私の意見や助言を記述して、学生に返しています。学生とのコミュニケーションに活用でき、授業改善に繋がる取り組みとなっています。

・特別支援学校教諭免許状（聴覚障害者）に関する授業では、学生に手話のスキルを求めています。学生からは「厳しい過ぎる」という意見がありますが、聴覚障害児教育の学校現場では手話ができないと指導ができない状況にあるため、免許状を取得する以上、ある一定のスキルを求めています。この点については、学生に理解していただきたいです。

毎時間の冒頭に「本時の学習内容とねらい」を伝えたり、グループワークの折には、授業開始前に座席を明示したりした。授業の次回配分がうまくいかないことが多々あったので、改善を図りたい。

授業全般を通じて、学生が自分の「問い」をもって課題に取り組み、探究する力をつけることを重視している。少人数のゼミナールではほぼ達成できているが、人数の多いクラスの場合、教師の意図がうまく伝わらない面がある。また、特に人数の多いクラスにおいて、専門的内容の体系的理解という点で、不足を感じる学生がいる。体系的理解と探究的理解のバランスを考えながら、それぞれのタイプの授業改善に取り組みたい。

発言とグループワークを重視することによって、授業参加意識を高めている。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

学生の主体的な参加を可能にするグループワークを充実させています。

I have made changes to explanations given to the students to increase their understanding of activities and projects.

授業のなかで振り返りを書く時間を設け提出することになっている。振り返りにはコメントを書いて返却したり、振り返り内容の一部紹介もおこなったりしている。また、学生同士で話し合う時間を設けたり、後期末の試験期間には課題を出さず負担軽減を心がけている。今後は、授業内容が将来の社会生活、職業生活とどのように関連づいているのかを明確にして活動に取り組むように心がけたい。また、学生の活動（話し合う、考え合う等）時間の確保と教師の話す時間の確保とのバランスにも心がけたい。

【独自に工夫している点】 これまで講義の授業では、①テキストの適切な使用、②補助プリントの作成、③新聞記事等を活用した現在の教育問題との関連づけ、④小レポートを活用した双方向的な授業などの工夫を行ってきた。最近では「まなびネット」をできるだけ活用することになっている。資料の作成に際しては、見やすいPPTスライド作り、情報の明確な提示、分かりやすい授業展開、教科書や補足資料への効果的な指示（関連づけ）に注意した。また、学生の負担が過重にならないよう、課題提示の回数を抑えることにした。

【アンケート結果を受けての改善点】 回答率が低いものの、アンケート結果から見て、授業の教育目標はある程度達成されたと思われる。教育をめぐる状況の変化はめまぐるしいので、毎年、新しい情報を盛りこんでいく工夫を続けたい。今年度後期はすべて対面授業で行った。授業時間中に受講生相互の意見交換の場を設定することが難しかったが、「まなびネット」の「フォーラム」をある程度活用することができた。課題（小レポート）の頻度は、授業3回につき1回とした。このレポート提示のタイミングや提出期間までの時間的な余裕については、おおむねよい評価をえることができた。課題に対するフィードバックにも心がけてきたが、受講生によっては不十分に感じている回答もあった。この点が、今後の最大の課題だと考えている。

工夫点：専門的な理論を複数扱うため、学習漫画を作成して違いが分かりやすいようにしている。

改善点：知識伝達が多くなりがちな内容なので、来年度は体験学習を取り入れてアウトプットの機会を増やす。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

すべての授業において、Microsoft Teamsを活用して参考文献資料や講義ノートの配布を行った
り、ミニレポートの提出を求めることでICT活用に努めている。また、講義中にも参考ウェブサイ
トを参照させたり、検索をさせるなどして、自らデータ・情報を確認する習慣が身につくように工
夫している。法論理を考えるような授業でも、現実社会とのかかわりをイメージしてもらうため、
ウェブサイトでの検索や新聞記事データベースの活用を行った。ただし、そうした機器操作に時間
がとられることと、やや情報過多になってしまった可能性があるため、その情報・データと各授業
の目的との関連性について説明するように努めたい。

主体的に学ぶことを重視している。模擬授業を行ない相互評価することによって、教育現場に役立
つ力をつけていきたい。

学校現場で授業をしていく上で直接役立つ知識・技能を得られるように講義をしている。今後も実
践的な学びの場を創っていきたい。

ドイツ語という普段の日常生活を送るうえではあまりなじみのない言語を学習するにあたり、受講
生になるべくドイツ語への関心を持続してもらえるように、ドイツの社会や文化に関しても授業内
で紹介するようにしている。こうしたことも考慮して授業内容の向上に努めていきたい。

専攻科目（1）は、例年30名ほどが受講する。英語を教える上で最低限必要な音声学の知識を
知ってもらう授業である。例年使っている教科書は盛りだくさんの内容で、今年度は、一部をやら
ず、その代わりに別の資料を使って聞き取り練習をかなりやった。 専攻科目（2）は、今年度は
開講に際して少しトラブルがあり授業開始が遅れたため、いろいろと不都合なことが多かった。昨
年のように文献を読んできて紹介してもらったが、今年度は、紹介者以外の受講者にはメモをとっ
てもらい、それを提出してもらった。少しでも能動的に授業参加してもらうためである。次年度は
この方式をもっと整備した上で、充実した授業法を考えたい。 共通科目も、久しぶりに担当した
留学生向けの授業である。日本語の文法を中心に解説をしつつ、学生からの反応に合わせて議論の
時間を持った。次年度は、読解資料を用意してより能動的なやり方を考えたい。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

生涯スポーツ実践者の育成を目指しており、様々な形式のゲームを通じて身体運動の楽しさを感じられるように工夫しているが、コロナ禍以降勝負事が苦手な学生が増えていることも考慮するべきと感じた。

独自の工夫：授業内ではGoogleフォームを活用し、その場で生じた学生の疑義に答えながら授業を進めている。

改善点：演習発表において、早めに発表のターンが終わった学生が、その後も引き続き、授業に参加できているという意識を持ってもらえる工夫が必要。

長年教えている専門科目は、受講生の反応によって色々に対応ができ大きな問題はなかった感じですが。一方で、初めて使用したテキストの授業では、思ったほど使い勝手が良くなかったため、授業準備で苦労しました。

小グループで話し合いをさせる際のテーマを、より学生自身が考えたいようなものに改善していきたい。提出した課題に対するフィードバック（文章によるコメント）が効果的だったという意見が多かったので、時間の許す限り取り入れていきたい。

大学の講義は、教員からの指示を待つだけでなく、自ら学ぶ姿勢をもつことが重要である。ただし、講義で学生の興味や意欲を刺激できなかったことは大いに反省しなくてはならないと思った。資料内容、資料の示し方に工夫が必要である。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

今回の結果では「未回答」の割合が全体の6割を占めていたため、残り4割の回答から判断したことに基づいて記述する。問1～8の8項目のうち6項目においては、全体として肯定的な回答を得ることができた。残り2項目については反応が分かれたが、これは、問7の「論理的思考力や課題探求力など、今後の社会生活や職業生活において重要と考えられる汎用的な能力を高めることができた」と、問8の「授業の内容への関心を高め、関連する資料や参考文献、事項や事象を自ら調べるなどの行動を取った」の2問である。まず問7については語学科目の場合、履修者が上記の文をどう読み取るかによって回答が分かれるのではないかと思う。冒頭の「論理的思考力や課題探求力」に注目するならば、言語能力の向上を第一に目指す本科目では、達成感が弱かったと感じるかもしれない。しかし、「今後の社会生活や職業生活において重要と考えられる汎用的な能力」に言語能力も含まれると考えるなら、少なくともある程度の達成感は得られたと思えるのではないだろうか。次に、問8に関しては前期のアンケート結果への回答でも述べたが、多人数の必修科目で改善するには、調査が必要な発表課題を課すという案が考えられる。現在、感染症による欠席者が頻繁に出る中で授業を行っているため、発表を採り入れた授業計画を組みにくい状況ではあるが、次年度以降、流行がおさまれば導入を検討したい。自由記述の設問では貴重な感想が一件寄せられ、書いてくれた履修者に感謝したい。試験の点数以外に平常点や予習点なども含めた成績評価方法だったので、英語が苦手でも頑張る気持ちになれたとのことであるが、教員側としても、なるべく幅広い観点から評価し、中でも意欲の高さをできる限り成績に反映させたいという思いがある。その方針のもとで履修者が積極的に参加でき、自身を向上させていけるなら、今後ともぜひ継続して続けていきたい。

学生の主体的な学びを促すために、グループワークなどを積極的に取り入れています。コミュニケーションを円滑にするため、グループの組み方やアイスブレイクの導入などの工夫をしています。

授業を展開する際に受講者全員が関わるようにするため、コミュニケーションを多く取れるようなウォーミングアップを実施している。授業内容に関しては全体での理解度を上げるためにそれぞれのスポーツに関する知識を取り入れながら講義を展開するよう注意する。

工夫：学生同士の意見交換の場の設定・分かりやすいワークシートの作成・学生への適切なフィードバック

改善点：ていねいな分かりやすい説明に心がける・作業時間と説明時間の区別を明確にする・アンケートへの回答を全員にさせるよう時間を設定する

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

授業方法としては、コメントシートやTeamsの課題、授業中の口頭でのやりとりなどを通じて、できるだけ受講生の見解を引き出す場を設けるよう努めている。改善点として、テストに関する連絡については細かな部分まで周知徹底したい。

授業方法は、しっかりとシラバスに説明し、それに沿って誠実に授業を実施するように心がけている。授業が基礎的でかつ積みあげて理解していく内容であるから予習・復習が必須である。そのため毎回小テストを実施し予習・復習を促した。1年生の授業であり、しっかりと自宅学習が身につけていると期待した。アンケートに回答した人は、概ねアンケート結果は肯定的な回答であり、それには納得がいくものであったが、回答率が低かったのは残念であり、非回答の人にこそ声を聞きたかった。

今まで以上に、一人一人の学生のレベルに合わせた指導や、学生の様子を観察して授業を行なっている。

- ・ 授業ではワークシートを使って課題を明らかにしたり、グループワークやワークショップでの対話型の授業展開を心掛けるなど、学生が主体的に取り組むための授業を心掛けている。
- ・ 毎授業後、振り返りシートに授業の要点や課題に思う自身の考えを書かせることで、授業の理解、課題意識の向上に努めている。
- ・ 学生の意見のなかに、外部講師の話がつまらないとの指摘があった。授業目的や授業方法について、講師との打ち合わせを密にすることで、講話のみの授業ではなく、実践的な話をベースとした対話型の授業展開を考えていきたい。

1年生必修授業については開始して3年目でもあり、試行錯誤の最中である。毎回異なる教員の講義や当事者からの講演会など盛りだくさんで、準備が大変であるが、学生からはおおむね好評である。ただ、個人の価値観に触れるような部分について教員の思いを伝えるところがあり、一人ひとり受け止め方が異なるため配慮が必要であろう（無難な表現になりがちであるが）。また、障害のある学生に対する配慮についても今後の課題である

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

- ・化合物の構造をわかりやすくするため授業で分子模型を用いる様にしている。
- ・年々学生の理解度の低下が見られるので、基本的な事項を繰り返し振り返る様にしている。
- ・まなびネットで授業の復習ができるような工夫を一部の授業で初めてみた。
- ・同じ授業を受講しているのに、話し合いの機会などの大小の捉え方が異なるようなので、伝わる工夫がさらに必要である。

授業はハイブリッドで行っているが、資料はすべてまなびネットで共有し学生が復習しやすいようにしている。また、オンデマンドの回では分かりにくいところなどをコメントで指摘してもらうようにして、その箇所の補足説明などを対面時に行うようにしている。また、自分の授業は教科内容なので、学生が関心や必要性をできるだけ感じるように授業の構成を考えている。独自というわけではなく、工夫と呼べるほどでもないと思うが以上のようなことをしている。

講義形式の授業については、パワーポイントを活用した解説をベースにしながら、肢体不自由や知的障害など障害のある子どもたちの画像や、それらの子どもたちを対象にした発達支援の実践についての動画などを取り入れ、口頭での説明だけでなく、映像を通して実際の様子が見えるようにしている。

また、演習形式の授業では、学生同士がペアを組む形式で実技演習を実施するなど、実践的な活動を通して体験的に学ぶ取り組みを行っている。

受講学生も多くは、前向きに意欲をもって授業に臨んでいるように感じられるが、今後の課題として考えられる点としては、このような専門的な実践上の技術的な面について、授業場面だけでは獲得していくことが難しい面もあるという点であろう。実践的な技術に関してそのポイントなどをより明確に伝えながら、繰り返し習得が進むようにより注力していくことが必要かと考えている。

・授業記録分析・指導案作成等の演習時は、グループ活動で学生同士の意見交換ができる機会を多くするよう心がけた。リフレクションペーパーを読むと、仲間がどんな考え方やアイデアを持っているか知ることが、学生にとっては何よりの学びになったようである。

・理論と実践の融合ができるように、できるだけ具体的事例（実際の教材・授業と理論との関連付け等）を多く取り入れるようにした。しかし、もっと理論面の深い内容を取り上げるのも求められていると感じたので、理論や知見を学生自身が探求できるような方法で取り入れていくことが必要かなと感じた。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

卒業研究の指導や演習科目では、主体的な学びになるように意識して行っている点がある程度評価されているように思えるものの、回答者数が少ない点に鑑みながらより主体的に学べるように改善を行うべきだと感じた。

後期授業の単独授業はゼミのみであった。ゼミの実施においては、論文検索や情報収集、論文執筆と統計に関する基本的な知識など、共通する内容については講義やグループワーク形式で取り組んでいる。4年時における学生各自の卒論作成にあたっては、テーマや研究方法が異なってくるため、適宜発表による資料作成と確認の機会を設定しながら、多くの時間を個別対応に割いた。卒論作成においては学生各自の進度が大きく異なり、共通内容の理解度も様々であるため、学生によって指導の時間の長短が必然的に生じてしまう結果となった。学生同士での相互援助も行うよう積極的に促したものの、学生個人の特徴の差異もあり、行き渡らなかった面もある様子がかがえた。

パワーポイントを使用して講義を行っている。要点が解りやすいように配布資料を作成しているが、今年度はメモを取る時間を十分取るようにしたい。

学生が自ら主体的に学ぶ機会や自分を見詰める機会を設けた。もっともっと授業の在り方について、学生が主体的に取り組むように切り替えるように、改善する必要がある。授業改善に取り組みます。

意見交換の機会を多くし、アクティブラーニングに努めている。議論が熱心に行われると時間を越えることがあったが、指摘もあったので、発表が長くならないよう計測するなど、タイムスケジュール管理は気を付けたい。

ディスカッションやグループワークを多数取り入れ、学生同士が活発に意見交換できるように工夫している。

理論と実践を往還することで理解を深められるようにしている。現場での経験を踏まえた内容、保育者のみならず子どもの立場から考えられる内容にすることで、保育者としての見方・考え方を学ぶことができたと思われる。事前事後学習の指示だけでなく、関連する資料や参考文献を提示すると、授業内容への関心がより深まると考えられる。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

独自に工夫している点は、授業の板書や配布する資料に多数の図表を用いて説明している点です。改善点は、説明の足りなかったことを、次回の授業で忘れないように補足することです。

授業方法については、以下のように行った。ほぼ毎時間、学生の意見を数多く求めながら、進めた。ロイロノートを用いた教材作成の練習を行った。ディベートを各授業（ゼミ以外）で2回ずつ実施した。株式学習ゲームを導入した。このように、アクティブ・ラーニングを数多く取り入れた。アンケート結果で指摘された点は、改善を試みる。

対面、オンデマンドの両方で情報共有や意見交換がスムーズに行えるよう、まなびネットやTeamsを有効活用した。

全体として概ね良好な結果であったと考えられる。スポーツ実技を主題として扱うが、その根幹は運動量の確保と運動習慣の形成、また指導技術の定着にある。男女の共修科目であり、主題となるスポーツ種目における経験者と初心者が混在する中、概ね良好な結果が得られたことについては一定の評価ができるのではないかと。本講義の履修者は扱うスポーツ種目における経験および技術習熟度の差がみられるものの、履修者の基盤としては初心者が多くを占めている。授業展開としては、ゲームの運営や、実技指導のための学習を主体的に行うことができ、戦略的かつ実践的にスポーツを楽しめる素養を持ち、育むことができるよう、習熟が進むような形態とした。ルールを理解や基礎技術の習得は、生涯にわたってスポーツを楽しむ上でも、また教員として指導にかかわる場合においても重要な素養となる。全体的に満足度がある程度高く見受けられるため、本講義におけるねらいに対し、効果的な内容を展開できたと考えられるのではないかと。授業の展開については大きく変更せず今後も展開していく予定である。各種目における基礎的な技術の習熟を促し、楽しむ姿勢を養うことで、教員として生涯にわたりスポーツを楽しみ、また指導を実践していくための素養を醸成していきたい。

基礎的な理論の解説だけでなく、ペア及びグループによるディスカッション、グループによる体験活動、その省察と発表、さらに単元構想の作成も取り入れている。必要に応じて、動画等の視聴覚教材、「まなびネット」のフォーラムによる意見・感想等の交流も活用している。アンケート項目に関して概ね達成できているといえるが、今後、それらの項目をさらに改善するようにしたい。例えば、授業とシラバスについての説明を詳しくしたり、学習意欲が高まるような参考文献をより多く紹介したりすることが考えられる。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

大学での学習にまだ慣れていない低学年の科目において、授業内容の要点を示しつつ、各回の授業内容の理解度を確認する質問を掲載した理解度チェック表を作成して学生に提示している。また、学内外の各種調査においても、日本の大学では授業外学習の時間がそれほど多くない現状がある。そこで、講義で学んだ内容について復習することを促すため、低学年科目において毎回の授業開始時に前回講義内容に関する復習テストを行なっている。

映像ソースを活用し、学生からのリアクション（感想文）を求めている。

受講生が多かったため全員にめが行き届かなかった点がある。

基本的に授業中に一度は学生が発言する機会を設ける（冒頭アイスブレイク、グループワーク、ペアワーク等）ように設計した。一方的な情報伝達にならないように、問いかけを多くしたり教材資料を挟むなどして学生に考えるように促した。アンケート結果を受けて、強いて言うならば授業時間以外での復習や発展的学習へつながるように助言・指示をより行っていきたいと考えた。

【工夫点】いくつかの種目を実施する為、ルールのスムーズな説明を行う。

【改善点】学生が考えることに耳を傾け、授業に還元できるようにする。

毎時間生徒には振り返りを記入させており、その際に私の授業に対する意見も書いてくる生徒もおります。それらの声はとても大事にしており、常によりよい授業展開をしていく所存であります。

まなびネットやオンラインホワイトボード等を活用し、効率的に学習できる構成を心掛け、一定の評価が得られた。今後もこの取り組みを継続し、学生が受講してよかったと思える授業となるよう努めたい。

工夫している点：授業ごとに振り返りと感想を求め、挙げられた疑問点についての解説などを行うことで、内容の理解をより深めるようにしている。

改善点：学生同士の話し合いなどの活動をもう少し増やしていきたいと考えている。

学生間で行う協同作業を活発に取り入れ、また、即座に自分の意見をまとめ上げプレゼンする機会を設けている。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

授業の規模と対象学生の性質を踏まえて適宜授業方法を工夫しているが、令和4年度に記したことから特に新規なところはない。令和4年度の改善点について、より好意的な反応があったと考えられるのは、授業者が慣れてきたことが多いだろう。

数学の先生になる人には少しでも論理的説明に慣れてほしいというこちらの思いがある。そのため講義では証明する機会が多くなり、学生にとっては説明が難しく聞こえたかもしれない。こちらとしては講義のときはわからなくても、後で復習してじっくり理解してもらえればいいのであるが、学生にはそのあたりの認識が不足しているのではないかと思う。今後は証明も大事であるが、得られた結果にどのような応用・発展があるのかを説明に取り入れていきたい。

実技演習の授業なので、できるだけ実技練習の時間をとるようにしている。実技向上に合わせて、指導者として指導するポイントについても考えさせるようにしている。

学生に自ら考えさせることを大切にしている。アンケートの未回答が多いことから今回のアンケートの結果から改善点を考えることは難しいが、それぞれの考えを共有し、それをどのように受け止めるかまで扱う必要があると思う。

回答は少数の方々でしたが、教員の行いや学生自身の学習状況についての多様な受け止めを確認しました。学修の目的意識や活動形態との親和性によって、態度や成果等に差異があることがうかがえます。こまめな問いかけや丁寧な論理展開によって、継続的な学修の参加が維持されうるように、引き続き授業担当者として対応していきます。また、学生から質問・意見が出やすい学習環境の確保にも引き続き留意します。

一方的な講義にならないように演習問題・小テストを取り入れて、学生同士の学び合いを促した。定期試験の難易度を含む、評価方法についての意見が多かったので、今後はシラバスや授業内で到達目標をより明確に伝えたいと考えている。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

10回程度の授業後にフォーム入力での振り返りアンケートをしていたために、授業改善のためのアンケートに参加した学生が少なかった。授業中に2つの課題を出しているが、学生らの自己評価や反応はかなり強いと思われた。自主研究課題の報告会は好評であった。防じんマスクのワークショップも高評価であった。グループディスカッションを設定した授業では、反応がかなり良かったが、講義室の広さに対して受講生が多すぎてやりづらかったという感想もあった。授業期間中に介護体験実習がある学生があり、スケジュール管理が難しいことはあるが、アンケート結果を受けて今後もできるだけ参加型の授業を心掛け、学生らの声を反映させていきたい。

講義科目ではGoogle Classroomで授業内容を確認できるようにしているためか、批判的な意見はあまりみられなかった。実習科目では批判的な意見が出されていたため、わかりやすさや短時間でできる方向へ改善するため、少しレベルを落とした教材や教え方を選定したい。

板書、パワーポイント、教科書をバランス良く提示している。

講義資料とパワーポイントを活用して講義を行っている。また、授業記録には必ず朱書きを入れ、学びの深めるための助言を行っている。アンケートの結果にもあったが、話し合い場面、協働的な学びの場をより多く設定し、深い学びを実現していくなど講義内容を見直して臨みたい。

どの授業においても、目標や身に付けるべき力をまず明確に示し、その中でも学生が受け身にならず自ら課題意識をもって取り組めるような授業内容(情報のアップデート)や方法について毎年授業改善に努めてきた。アンケート結果では、その点は評価されているが、授業を受けた後、さらに自ら学びを深めようとする意識が十分でなかったことが示されている点を踏まえ、これまでは最終授業で講義における参考文献や参考資料を示していたのが、その後の学びに繋がらなかった要因の一つでもあると反省し、参考文献や参考資料などをその都度提示し、学生が自ら学びを深められるようにしていきたい。

絵画の技法について教えている。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

授業目標をシラバスやガイダンスの時にしっかりと伝え、少なくとも理解しなければならない事柄を理解してもらった点は良かったと思う。グループディスカッションについてはしっかりと指示を与えて行くと「今はグループディスカッションを行なっているんだ」と認識してくれるのかもしれない。

工夫しているのは資料の充実と、古くなったものは使わず更新していることである。実習も可能な限り取り入れている。

大人数の講義形式の授業と比較的少人数の授業とを同列にはできないが、後者ではある程度実践できていたグループワークや授業のフィードバックの経験を、前者にも活かしていくことが課題と思われた。また、活発なディスカッションをうながすために教員による授業進行など工夫の余地がまだあると感じた。全体的な授業の流れを再検証し、学生の学習意欲が自発的に高まるような授業へと改善していきたい。

専攻科目（1）

・独自に工夫している点：歴史など、学生にとって具体的なイメージが難しいことが予想される場合には、実際に体験してみたり、現代の保育・幼児教育と結びつけてグループワーク等で考える機会を設定したりしている。

・アンケート結果を受けての改善点：本授業以外の、保育や教育に関する分野に関連付けて考えることができるような授業内容を引き続き考えたい。

専攻科目（2）

・独自に工夫している点：絵本の読み聞かせやパネルシアターの実践を経験することに加えて、学生一人一人にフィードバックを行うことで、保育実践に活用できるようにしている。

・アンケート結果を受けての改善点：絵本やパネルシアターの実践は今後も続けたい。保育における子どもの事例を多く挙げるなど、子どもの姿と授業の学びとを関連付けられるような授業内容にする。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

授業方法については、学生自身が興味を持ち、自分自身で学びを深めることができるようにと考えているが、実技が伴う専門の内容になると、難しい面がある。今回のアンケートは、回答数が少なく、全体を把握することができないが、どの授業においても、得意な学生の回答であったように思う。今後も内容、方法については検討していきたい。他の分野とのつながりなども設問項目に入っているが、学年、授業内容によっては、つながるのは先のことであり、まずは一つのことを集中して学び考えることも必要だと考えている。

後期科目に関しては、少人数のゼミと教職科目であり、教職科目については、全クラス共通の教材で授業をしており、資料の要点を詳しく説明する程度の工夫しかできません。

教職科目は授業全体が複数の教員の教材で構成されているので、クラスを担当する教員が独自に工夫する余地は少ないのだが、授業のオンデマンド回ではまなびネットに質問用掲示板を設置し、対面回では気軽に質問するよう声かけをして、わからずに手が止まっているような学生をサポートした。

当たり前のことではあるが、高等学校（理系）や前学期までに学んでいる事柄を前提として講義を進めている。それら基本的な知識・技能が身につけていない学生には難しく感じるかもしれない。しかし、大学での各学期の講義は高校や前学期までの補習ではないので、不足する事柄を補完する際の参考になるよう、授業内容に関わる補足資料を、まなびネットを通して随時公開している。予想通りではあるが、それが必要とされる学生に限って全くアクセスしていない。一方で、日頃から自学自修する習慣のある学生は理解が深い。そうでない学生は、分からないことを講義担当者の責任にするのではなく、自身の知識・技能不足である事を自覚し、自学自修することの必要性・重要性に気付くよう努力してもらいたい。なお、試験では、合否を判定するための基礎問題に加え、最終評価の違いが出るよう標準的なものから少々難しい問題をバランス良く出題するよう心掛けている。期末試験についてのコメントをしておこう。すべての受講生が簡単に解答できるものばかりを出題しているわけではない。意欲ある受講生にはより意欲的になってほしいため、彼らに対する問題も含んでいる

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

職場としては4つめの大学で有り、結果として現在の形としている。心理の専門知識を伝えている講義の性質上知識を得るためのものであり、アクティブラーニング的にはなりにくいため、学生にその旨の理由を講義の開始時に伝えて行く予定。

受講人数が平均20人前後という小規模な授業なので、グループワークを活用して学びを深めている。また具体的な事例を提示することで、現場で働く際のイメージがわかりやすいようにしている。福祉コースの学生にとって、教育現場や子どもに関わる知識は福祉現場で働く際にも役立つということや福祉分野で働くということは地域社会の全ての家庭が対象になりうること、あらゆる知識が効果的な支援と地続きであるという感覚が身につくように、解説や事例の提示の仕方を工夫したい。

演習科目である専攻科目(1)・専攻科目(2)では、文学作品の先行研究の要約や語句の注釈、異同の確認といった多様な観点からのグループ発表を実施し、作品を多角的に捉えられるよう意識している。ゼミの専攻科目(3)では、特定の作品や、受講生の関心のある作品について個別発表と質疑応答・フィードバックを行い、より考察を深めている。専攻科目(3)では、優れて学べていると感じた・汎用的な能力を身につけられた・体系的に理解できたという項目について、そう思う・ややそう思うの回答率が高かった。ゼミ科目のため、時間をとって発表や質疑応答ができ、学びを実感できた学生が多かったと思われる。グループ発表を行う専攻科目(1)では、上記の項目はややそう思うの方が回答率が高かったため、フィードバック・再考察の機会を活用して、より学びを実感できる機会を設けたい。なお、専攻科目(2)ではアンケートの回答数が非常に少なくなってしまう、傾向を抽出することが困難であった。演習科目は発表・質疑を行っている、授業内で回答する時間がとれず、授業外で回答してもらうことになるケースが多いが、授業内での告知やオンライン授業の動画、まなびネットのリマインドを活用して提出率を上げていきたい。講義科目である教科内容科目でも、ただ単に講義を聞くだけにとどまらず、その講義で話した内容に関わる短時間のグループ討議を設けたり、板書の仕方に関する授業なら課題で自分なりの板書を考えさせたりと、学んだことを実践する小さな課題を毎回設けている。ただし、同科目では、関心を持ち、自ら調べるなどの行動をとったかという項目に対して、あまりそう思わないという回答も見受けられたので、資料を調査したり考察を深めたりする活動も増やしていく必要があると感じた。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

共通科目では、スポーツ活動を通じて喜びや楽しさを体験してもらうとともに、生涯スポーツを楽しむ知識・技能・自信を身につけることを狙いとして授業展開をした。授業を通して心がけたことは、ニュースポーツの種目特性（初めてプレーする、仲間と協力する等）を最大限に生かすことであった。実際多くの学生にとって初めてのスポーツとの出会いの場となり、とても良い雰囲気の中で授業を進めることができた。アンケートの自由記述においても「ニュースポーツとても楽しかったです。」「単純に身体を動かすことが楽しいと感じることができた授業だった。」といったこれまで運動が苦手な学生が体育の授業を楽しめなかった学生がニュースポーツに好印象を抱いている様子や「将来、小学校の先生になったときに取り入れたいと思いました。」といった将来の自身のキャリアに活かしたいという、本授業の狙いが達成できている様子が窺えた。

専攻科目（教育支援専門職養成課程）（1）

概ね高評価ではあったが、「授業のなかで提示された専門的知識を、体系的に、また他の分野や事象とも関連づけながら理解できた」という質問項目の評価が低かった。実質、卒論指導の時間なので、「他の分野との関連」をどう授業の中に取り込むか、思案のしどころであるが、今後の課題としたい。

専攻科目（教育支援専門職養成課程）（2）

ほぼ全回答に「とてもそう思う」の高評価を得られたので、このレベルを落とさず、次年度も良い授業を心がけたい。

共通科目（1）（2）（3）

一方的に講義する内容であったため、「レポート課題」や「グループ・ディスカッション」などの不足が指摘されていたことは大いに反省すべきところかと思う。次年度については、これらの点について留意し、何らかの形でディスカッション形式の活動を取り入れる工夫をしてみたい。

独自の工夫点：小中学校の家庭科の授業を想定して、絵本を教材にしている

アンケート結果を受けての改善点：グループディスカッションやグループワークを取り入れたい